

科目名	行動分析学特論Ⅱ	担当教員	杉山尚子
科目属性	専門科目 B	単位数	2単位
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>この授業の目的は、行動分析学の立場から研究を遂行するために必須のスキルを身につけるためのものです。本科目の到達目標は、修士論文作成に向けて、自分の研究に関する展望論文を書くことです。なお、具体的な到達目標は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究に必要な文献（英文文献も含む）を批判的に講読できる 2. 行動分析的な視点で行動的問題を分析できる 3. 個体内比較法（単一被験体法）の実験計画を立案することができる 4. 行動的問題を、行動的介入によって解決できる 5. 得られたデータを視覚的に表現できる（効果的なグラフの作成） 			
<p>【授業計画】</p> <p>本科目の15回の授業計画は、以下のようになっています。</p> <p>第1回：行動的な研究とはどのようなものか</p> <p>第2回：日常的興味と科学的好奇心</p> <p>第3回：研究論文の種類</p> <p>第4回：観察、調査、実験</p> <p>第5回：因果関係と相関関係</p> <p>第6回：群間比較法と個体内比較法</p> <p>第7回：個体内比較法（反転法）</p> <p>第8回：個体内比較法（多層ベースライン法）</p> <p>第9回：個体内比較法（基準変化法）</p> <p>第10回：個体内比較法（条件交替法）</p> <p>第11回：実験データの科学的的重要性</p> <p>第12回：データの信頼性と妥当性</p> <p>第13回：直接的再現（direct replication）</p> <p>第13回：系統的再現（systematic replication）</p> <p>第14回：グラフの読み方</p> <p>第15回：よいグラフの書き方</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>授業は、教材学習ならびに科目修得試験に合格して単位の認定となります。評価については、レポート課題が50%、科目修得試験50%の割合で総合しての評価となります。</p>			
<p>【教科書】</p> <p><i>Behavior Modification</i> の第1巻から最新号までのすべて</p> <p><i>Journal of Applied Behavior Analysis</i> の第1巻から最新号までのすべて</p> <p><i>Journal of Behavioral Education</i> の第1巻から最新号までのすべて</p> <p><i>Journal of Experimental Analysis of Behavior</i> の第1巻から最新号までのすべて</p> <p>行動分析学研究の第1巻から最新号までのすべて</p> <p>このほか、履修者の研究テーマそって、読むべきテキストを指定します。</p>			

【参考図書】

Reynolds, G. S. (1975). *A primer of operant conditioning*. 浅野俊夫訳.(1978). オペラント心理学
入門 ISBN-13: 978-4781900438

Sidman, M. (1960). *Tactics of scientific research: Evaluating experimental data in Psychology*.
Basic Books.